

脳卒中歩行再建のための 「学習設計図」

-機器・徒手・フィードバックの統合意思決定-

抄録集・プログラム集

日 時 2025年12月14日(日) 9:00~16:10

会 場 四国医療専門学校(ハイブリッド開催)

集会長 福田真也 橋本病院

準備委員長 木原幸太 伊予病院





L300 Go® Foot Drop System

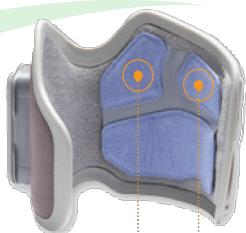
bioness®
A Bioventus Rehab Company

移動性の向上をより簡単に

(H003-2) 運動量増加機器 加算対象機器



電極の位置決めが不要



ステアリングパラメータ

内側(内反方向)

外側(外反方向)



レギュラーサイズ
適合する脚部外周
29~51cm



スマールサイズ
適合する脚部外周
22~31cm

* 一体型電極でモーターポイントの設定が簡素化！

* ステアリングパラメーターで内外反のコントロールが可能！



3Dモーション検知機能

- * 3軸ジャイロスコープと加速度計で動きを検知！
- * 歩行周期パラメーターで簡単調節！
- * 学習アルゴリズムが歩行ダイナミクスに適応！
- * エルゴメーターと併用できるサイクルモード！



歩行モード



サイクルモード



| 脳卒中 | 脊髄損傷(不全損傷) | 外傷性脳損傷 | 脳性麻痺 | 多発性硬化症

FranceBed

フランスベッド株式会社

リハビリ医療器推進課 042-349-5417



脳卒中歩行再建のための『学習設計図』 -機器・徒手・フィードバックの統合意思決定-

橋本病院
集会長 福田 真也

開催趣意

脳卒中患者の歩行再建を目的とした理学療法は多様な方法が検討され、エビデンスも徐々に蓄積されて来ている。しかし、「機器」・「徒手」・「口頭フィードバック」という臨床現場で頻用される3つの方法については、その個別および統合的な活用方法についての検討が十分とは言い難い。改めて、「機器」・「徒手」・「口頭フィードバック」の3つの介入モードを主軸とし、歩行再建に対する介入方法を再考し、運動学習を設計する中で、どの様に組み合わせ、漸減させて行くのかを議論したいと考える。

本サテライトカンファレンスでは、これら3つの介入モードについて、教育講演ならびに実践的な症例提示を交えて、脳卒中患者の歩行再建に必要となる3つの介入モードの配列・連鎖・漸減を明確化し、「学習設計図」の構築を行い、これらを通じて、臨床の質を高め、より効果的な神経理学療法を具体化する事を目的とする。

本カンファレンスが、実践的な意見交換の場となり、明日からの臨床において、より質の高い、神経理学療法が対象者に届く様な有益な情報提供となる事を目指す。

略歴

(学歴)

- 2007年 吉備国際大学保健科学部 理学療法学科卒業
2019年 高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 医科学専攻 修士課程修了

(職歴)

- 2007年 医療法人社団和風会 橋本病院 勤務 (現在に至る)
2019年 四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師 (現在に至る)

(保有資格)

専門理学療法士(神経), 認定理学療法士(脳卒中), 介護支援専門員, 糖尿病療養指導士, 3学会合同呼吸療法認定士

(活動)

日本神経理学療法学会 香川地方会リーダー
SCPA-Japan 香川県支部

目次

1. 集会長挨拶	3
2. 目次	4
3. 会場周辺図	5
4. 会場案内図	6
5. サテライトカンファレンス日程	7
6. ご参加の皆様へ	8
7. サテライトカンファレンスプログラム	12
8. 抄録集	13

四国医療専門学校

〒769-0205 香川県宇多津町浜五番丁 62-1 TEL 0877-41-2323



JR 宇多津駅から徒歩

約 7 分

高松空港から車で

約 45 分

四国医療専門学校

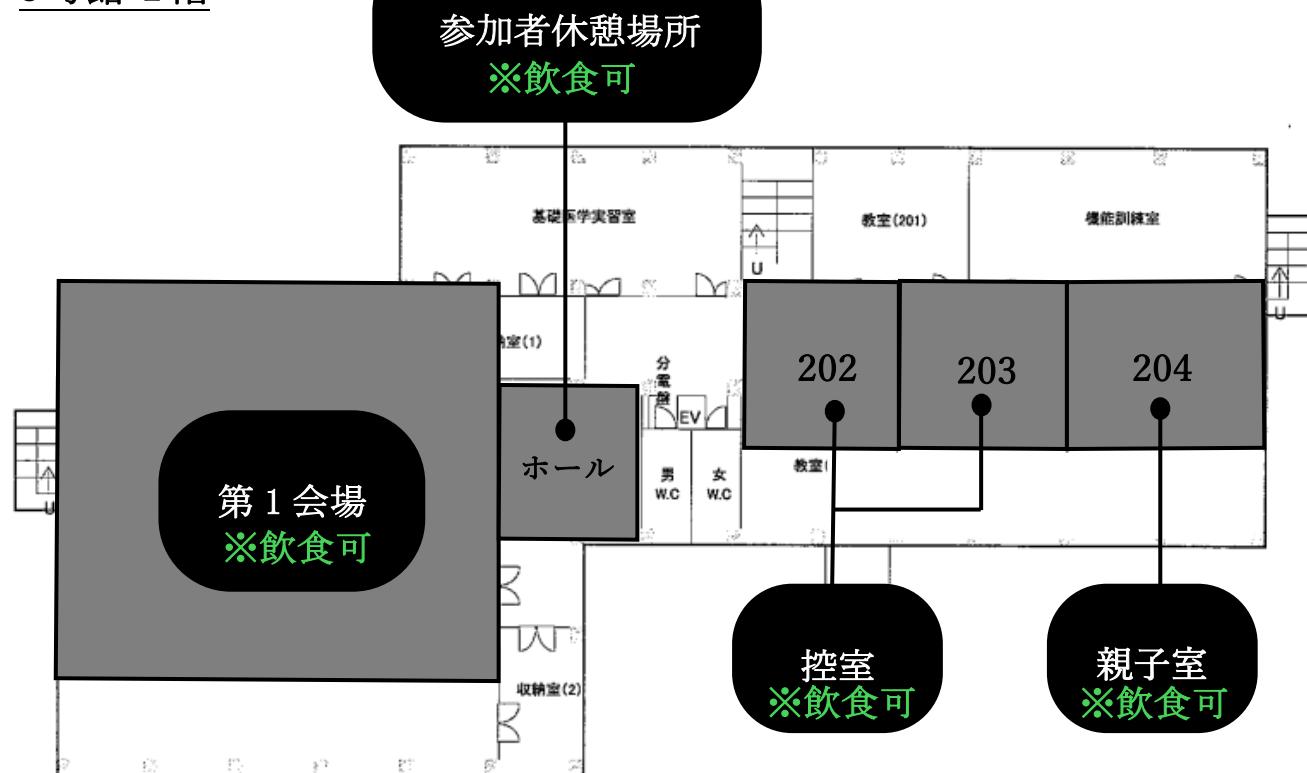


会場案内図

3号館 1階



3号館 2階



第35回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス 日程表

		第1会場 四国医療専門学校
9時	00 10 20 30 40 50	9:00～9:40 開場・受付(zoom入室開始) ※会場設営・受付準備は8:00～
10時	00 10 20 30 40 50	9:40～9:50 オープニンググリマーク 福田真也(橋本病院) 9:50～10:20 基調講演 『歩行再建における運動学習を軸にした3つの介入モードの統合』 講師 濱田 裕幸(東京大学) 座長 福田 真也
11時	00 10 20 30 40 50	10:20～11:20 教育講演1 『歩行環境調整の目的とパラメータ設計』 講師 谷野 元一(藤田医科大学岡崎医療センター) 症例提示1 『歩行の回復に合わせた支援機器漸減の実践』 講師 岡林 雅樹(近森リハビリテーション病院) 座長 渡邊 家泰(高知健康科学大学)
12時	00 10 20 30 40 50	11:20～11:30 休憩 11:30～12:30 教育講演2 『口頭フィードバックによる外的注意の与え方と止めどき』 講師 佐々木 克尚(四国医療専門学校) 症例提示2 『口頭フィードバックによる歩容修正の実践』 講師 松本 猛(橋本病院) 座長 木原 幸太(伊予病院)
13時	00 10 20 30 40 50	12:30～13:20 昼休憩
14時	00 10 20 30 40 50	13:20～14:20 教育講演3 『ガイダンス(徒手)-介助量の定量化と卒業基準』 講師 長田 悠路(徳島文理大学) 症例提示3 『歩行獲得に向けたガイダンス(徒手)の実践』 講師 松崎 和也(鴨島病院) 座長 田上 友希(徳島赤十字病院)
15時	00 10 20 30 40 50	14:20～14:30 休憩 14:30～16:00 総合ディスカッション 『機器・徒手・フィードバックの配列・連鎖・漸減をどう設計するか-意思決定アルゴリズム』 濱田 裕幸(東京大学) 長田 悠路(徳島文理大学) 谷野 元一(藤田医科大学岡崎医療センター) 佐々木 克尚(四国医療専門学校) 座長 平野 明日香(藤田医科大学病院) 福田 真也(橋本病院)
16時	00 10 20 30 40 50	16:00～16:10 閉会の挨拶 後片付け

ご参加の皆様へ

1. 開催概要

開催日時：令和7年12月14日（日）

開催方法：ハイブリッド開催 対面+ZOOMウェビナー（オンデマンド配信あり）

対面会場：四国医療専門学校

2. 参加登録費

【参加費】

区分	参加登録費
日本神経理学療法学会 専門会員A・B 一般会員	3000円
上記以外の日本理学療法士協会会員	3000円
日本理学療法士協会 非会員 学生	550円
日本理学療法士協会 非会員 他職種	4400円
日本理学療法士協会 非会員 理学療法士	5500円

※理学療法士免許を保有される方で協会会員でない場合は非会員（理学療法士）となります。

※非会員学生とは、医療系養成校在学者を指します。当日会場受付で、学生証の提示を求められることがございますので、学生証をお持ちください。

【領収書】

協会会員：協会マイページからダウンロードしてください。

協会非会員：参加登録時のPaygentからダウンロードしてください。

3. 参加受付

当日および事前受付されている方も、当日は必ず参加受付をお願いします。

時間 12月14日（日） 9:00～16:10

場所 四国医療専門学校 1階

※現地参加の皆様へ 第1会場での飲食は可能ですが、ゴミは各自お持ち帰りください。

日本理学療法士協会会員の方

- ・「日本理学療法士協会メンバーアプリ（以下、JPTAアプリ）」を用いて受付を行います。
- ・当日はJPTAアプリを使用したQRコードによる受付を行います。事前にJPTAアプリのダウンロードをお願い致します。

日本理学療法士協会 メンバーアプリ（無料）

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newsystem/>



日本理学療法士協会会員以外の方

- Payvent を利用して参加登録された方

(当日参加の方)

協会会員以外の方で、当日現地にて参加される方は、受付にて参加受付を行なってください。

受付にて、紙媒体で参加受付を行います。

(WEB 参加の方)

協会会員以外の方で WEB 参加の方は、特に受付の必要はございません。視聴ログにて確認出来るので不要としております。

4. 生涯学習のプログラムのポイント認定について

「学会参加」として、以下 2 つの履修目的でのポイント取得が対象であり、事前・当日登録時に 1 つ選択していただきます。参加登録の検討にご活用ください。

なお、事前参加登録時、または当日参加登録時に一度選択したものについては、変更できかねますので、ご確認の上、登録をお願いいたします。

WEB での参加の方のポイント認定については、ZOOM ウェビナーの視聴ログにて参加の有無を判断致しますので、必ず全プログラムにおいて接続しておいてください。もし視聴ログが確認出来なかつた場合、認定が出来ませんので、ご注意ください。

オンデマンドではポイント付与出来ません。

- 登録理学療法士更新：区分 5 「カリキュラムコード 64 歩行・歩行障害」5 ポイント
- 認定/専門理学療法士更新：研修会 5 点

※前期研修・後期研修履修中の会員の皆様は、登録理学療法士更新を選択し、申し込みをお願いいたします。

5. WEB での当日参加方法

本サテライトカンファレンスは、ZOOM ウェビナーで行います。接続用 URL, ID, パスワードはオンライン参加者にメールでお知らせします。円滑な進行とセキュリティ確保のため以下の注意事項をご確認ください。

1) 事前準備について

- サテライトカンファレンス開催日前にアプリの最新版がインストールされていることをご確認ください。
- インターネット接続が安定している環境でご参加ください。
- 本ウェビナーの参加用 URL や ID, パスワードは第三者と共有しないでください。

2) 入室について

- 開始 30 分前の 9 時 00 分から入室可能です。
- 開始 10 分前（9 時 30 分）にはご入室していただき、接続状況をご確認ください。
- に参加する際は、本人確認のため、氏名入力欄に「会員番号（理学療法士以外は職種）、氏名、所属」を設定し入室ください。
- 本ウェビナーの録画、スクリーンショット、録音は禁止です。

3) 質疑応答について

- ・質疑応答について講演終了後に質問を受け付けます。尚、各セッションの質疑応答時間が短いため、総合討論でお答えさせて頂く場合もございますので、御了承ください。
- ・質問の採否は司会や座長に一任となりますのでご了承ください。
- ・講演内容に関するご質問は、「Q&A 機能」でコメント入力してください。
- ・当日の進行状況に合わせ、回答のタイミングや方法を柔軟に調整させていただきますことをご容赦願います。

4) 通信環境

通信環境について、インターネット接続は有線 LAN を推奨します。無線接続（Wi-Fi など）の場合やインターネット速度が低下した環境で接続している場合、接続が不安定になり、映像や音声に影響が出る場合がございます。通信環境不良による責任は負いかねます。

【お問い合わせ先】

※本研修会に関する親子室以外の全般的なお問い合わせは、下記窓口へお願いいたします。

（お問い合わせ先）第 35 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス香川 事務局

（担当）大森 貴允（松山リハビリテーション病院）

（E-mail）shikoku.sc2025@gmail.com

6. 子育て世代でご参加されている皆様へ

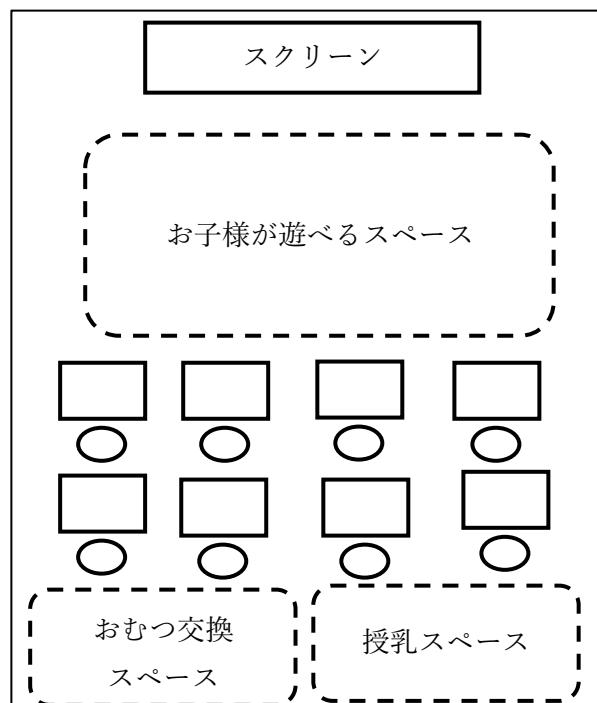
第 35 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス香川では、子育て世代の皆様が神経理学療法をより学べる環境にしたいという想いから、初めての試みとして「親子室」を設置いたします。

1) ご利用方法

親子室への入室は、カンファレンス参加者、お子様、お子様を世話するご家族・ベビーシッターなど保護者の方が無料でご利用いただけます。

受付で、同伴するご家族とお子様の名前、連絡先（電話番号）をお伝えください。

親子室への入退室は、基本的にお子様と保護者ご一緒にお願いいたします。ただし小学生以上のトイレ利用時に限っては、お子様単独での入退室を許可します。準備委員にその都度申し出てください。



2) 環境について

親子室には、講義内容をライブ中継するスクリーン、一般的な学校用の机と椅子、お子様が遊べるスペース、おむつ交換スペース、授乳スペースを設置します。

親子室では飲食及びベビーカーの持ち込み可能です。飲食物やおむつ等は各自ご用意いただき、発生したごみはすべてお持ち帰りください。

※上記は親子室のイメージ図ですが、レイアウトが変更になる可能性がありますのでご了承下さい。

3) 持ち物について

お子様には会場内で身に着けておく名札をご用意ください。保育所や学校で使用しているものでも大丈夫です。お昼寝やおむつ交換にはマットや布団などを一部準備してありますが、数に限りがあります。また子育て世代を応援する有志からの提供になります。ご持参できる方はご協力をお願ひいたします。

おもちゃなどの持ち込みは可能ですが、親子室の運営が今後も続くよう、持ち物の管理や会場設備の維持ができるよう配慮してください。

4) ポイント付与について

万が一、途中退席となった場合は、ポイント付与はできません。また途中退席後にオンラインでの受講をされたとしても、システム上ポイント付与はできません。ご了承ください。

5) その他

親子室ではお子様も楽しく1日過ごしていただきたいと思います。多少の喧騒により講義内容が聞き取りにくくなることは想定されます。音量はその都度調整しますが、ご要望があれば準備委員にお知らせください。

万が一、お子様の体調に異変があった場合には、医務室といった環境は準備しておりませんので、保護者の方で対応していただくようお願いします。

講演内容に関するご質問は、「Q&A機能」を使用いたしますので準備委員に声をかけてください。

親子室には準備委員が常駐しますが、保育資格などは有していないので親子室全体の管理のみを行います。万が一、怪我などが発生した場合の責任などは負いかねますのでご了承ください。

<お問い合わせ・申し込み>

google フォームから承っております。申し込み締め切りは12月7日17時までとします。

<https://forms.gle/FCSmM6mGAEjfTz4QA>

今後も継続して、このような「親子室」の設置に取り組めるよう、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

【親子室に関するお問い合わせ先】

(お問い合わせ先) 第35回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス香川 事務局

(担当) 入船直子 (高松協同病院)

(E-mail) kodomoto.sc2025@gmail.com

サテライトカンファレンスプログラム

9時40～9時50分 オープニングリマーク

「歩行再建のための学習設計図の構築」

集会長 福田 真也（橋本病院）

9時50分～10時20分 基調講演

座長 福田 真也（橋本病院）

「歩行再建における運動学習を軸にした3つの介入モードの統合」

講演講師 濱田 裕幸（東京大学）

10時30分～11時30分 教育講演1&症例提示1

座長 渡邊 家泰（高知健康科学大学）

「歩行環境調整の目的とパラメータ設計」

講演講師 谷野 元一（藤田医科大学岡崎医療センター）

「歩行の回復に合わせた支援機器漸減の実践」

症例講師 岡林 雅樹（近森リハビリテーション病院）

11時40分～12時40分 教育講演2&症例提示2

座長 木原 幸太（伊予病院）

「口頭フィードバックによる外的注意の与え方と止めどき」

講演講師 佐々木 克尚（四国医療専門学校）

「口頭フィードバックによる歩容修正の実践」

症例講師 松本 猛（橋本病院）

13時20分～14時20分 教育講演3&症例提示3

座長 田上 友希（徳島赤十字病院）

「ガイダンス（徒手）～介助量の定量化と卒業基準」

講演講師 長田 悠路（徳島文理大学）

「歩行獲得に向けたガイダンス（徒手）の実践」

症例講師 松崎 和也（鴨鳴病院）

14時30分～16時00分 総合討論

座長 平野 明日香（藤田医科大学病院）・福田 真也（橋本病院）

「機器・徒手・フィードバックの配列・連鎖・漸減をどう設計するか—意思決定アルゴリズム」

シンポジスト 濱田 裕幸（東京大学） 谷野 元一（藤田医科大学岡崎医療センター）

佐々木 克尚（四国医療専門学校） 長田 悠路（徳島文理大学）

16時00分～16時10分 閉会の辞

準備委員長 木原 幸太（伊予病院）



歩行再建における運動学習を軸にした 3 つの介入モードの統合

東京大学 大学院新領域創成科学研究科
濱田 裕幸

講演概要

脳卒中患者の歩行再建を目的とした理学療法においては、機器による支援や徒手的介入、口頭フィードバックといった介入が用いられている。しかし、これら 3 つの介入が運動学習の過程にどのように寄与するのかということや学習段階とどのように対応するのかということは整理されておらず、理学療法の介入期間という時間軸上でどのように配列・統合していくかという点は十分に議論されていない。

本講演では、運動学習を「感覚フィードバックに基づく運動制御の最適化」と「能動的な誤差修正」として捉え、各介入がその中で果たす役割（外的支援による誤差抑制・徒手的誘導による運動戦略の再構築・言語的フィードバックによる自己参照のプロセス形成など）を再考する。さらに、運動学習の進行度・課題難易度・能動性といったパラメータに応じた介入間の関係性のモデルを提示し、歩行再建における「運動学習」の概念を共有することを目指す。本講演を通じて、臨床における運動学習の枠組みを再検討し、今後の理学療法の方向性を議論するための基盤を提供したい。

略歴

(学歴)

- 2008 年 千葉県医療技術大学校 理学療法学科卒業
2012 年 千葉大学大学院医学薬学府医科学専攻修士課程修了
2016 年 千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻博士課程修了

(職歴)

- 2008 年 市川市リハビリテーション病院 リハビリテーション科理学療法士（～2015 年）
2018 年 文京学院大学 保健医療技術学部理学療法学科 助手（～2020 年）
2020 年 東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻 特任助教（～2024 年）
2024 年 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 特任講師（現在に至る）

(保有資格)

- 博士（医学）、認定理学療法士（脳卒中）



歩行環境調整の目的とパラメータ設計

藤田医科大学岡崎医療センター リハビリテーション部
谷野 元一

講演概要

脳卒中患者の歩行再建には、患者の状態を把握し、帰結を予測したうえで、練習を進めることが重要である。また、歩行練習を進める中で、解決すべき問題に対し、機器が利用されることもある。そのため、機器の特性を理解した上で、我々が必要な道具を選択し、練習を進めなければならない。決して、機器が先にあるわけではないという点は、練習を進める上で考慮しておきたい。

今回は、下肢装具、懸垂装置、電気刺激装置などを概説する。また、運動学習を考えて作られた歩行練習支援ロボットであるウェルウォーク (Hirano S et al, 2017) を通じ、難易度調整、フィードバックなど運動学習に大切な要素と、環境調整・パラメータを合わせて考える機会としたい。

略歴

(学歴)

- 2003年 藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校 理学療法科 卒業
2006年 放送大学 教養学部 発達と教育専攻 卒業
2010年 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科 修了 修士（保健学）
2016年 藤田保健衛生大学大学院 医学研究科 博士課程 単位取得退学
2016年 藤田保健衛生大学大学院 博士（医学）

(職歴)

- 2003年 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム リハビリテーション部 理学療法士
2012年 藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所 リハビリテーション研究部門 助教
2017年 藤田保健衛生大学 研究支援推進センター 共同利用研究推進施設 助教
2017年 トヨタ自動車株式会社（出向） パートナーロボット部 主任
2019年 藤田医科大学病院 リハビリテーション部 係長
2020年 藤田医科大学岡崎医療センター リハビリテーション部 課長

(保有資格)

- 専門理学療法士（神経） 認定理学療法士（脳卒中）



歩行の回復に合わせた支援機器漸減の実践

近森リハビリテーション病院

岡林 雅樹

講演概要

脳卒中後の歩行再建における理学療法は、リハビリテーション支援機器の発展により多様な学習設計が可能となってきた。しかし、臨床では病態や回復段階が複雑に混在するため、機器をどのように選択・漸減し、徒手や口頭フィードバックと統合していくかという学習設計の一貫性を保つことは容易ではない。本講演では、重度歩行障害を呈した脳卒中片麻痺者に対し、リハビリテーション支援ロボット(Welwalk)による安全かつ反復的な歩行練習を初期段階で導入し、歩行能力の回復に合わせて機能的電気刺激(Functional Electrical Stimulation : FES)を併用した歩行練習へと移行した実践を報告する。Welwalkによって得られた安定した歩行環境のもとで正しい感覚入力を反復させ、運動出力の自律化を促したうえで、FESを用いた立脚期から遊脚期への推進力・タイミングの学習へ展開した。

これらの経過を三次元動作解析や臨床的観察を通じて分析し、支援機器の選択・漸減が運動学習の「外的支援から自律的学習への移行」を体系的に支えるプロセスであることを示す。

本症例を通して、「機器」「徒手」「口頭フィードバック」という三つの介入モードを連鎖的・補完的に捉え、機器を単なる補助具としてではなく、学習環境を設計する“媒体”として位置づける臨床的視点を共有する。支援機器の選択と漸減が、徒手・口頭フィードバックを含む運動設計の一環として再考する契機となれば幸いである。

略歴

(学歴)

2016年 高知医療学院 理学療法学科 卒業

(職歴)

2016年 社会医療法人近森会 近森病院 勤務

2018年 社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院 勤務 (現在に至る)

(保有資格)

認定理学療法士(脳卒中)

(活動)

高知県理学療法士協会 厚生部 部員



口頭フィードバックによる外的注意の与え方と止めどき

四国医療専門学校
佐々木克尚

講演概要

脳卒中の歩行練習において、セラピストが用いる戦略の一つに口頭によるフィードバックがある。これは、機器の使用や徒手的誘導と並ぶ重要な介入手段である。Kalら (2017) は、脳卒中患者の歩行リハビリテーション中におけるセラピストの言語的コミュニケーションを調査した。その結果、1回の歩行練習中に平均 163 回もの指示およびフィードバックを発していることが明らかとなった。

このように、口頭フィードバックは臨床現場で極めて頻繁に行われているにもかかわらず、他の 2 つの戦略と比べて議論が少なく、エビデンスも十分とは言えない。そこで本講演では、これまでに報告されている口頭フィードバックに関する知見を紹介し、その効果的な伝え方について参加者と議論したい。

また、口頭フィードバックによって歩行が変化したとしても、それが即時的な変化にとどまるようでは意味がない。患者自身が歩行の問題点を理解し、主体的に練習へ取り組み、継続への動機づけを得ることが、歩行再学習には不可欠である。そのため、効果を持続させるための口頭フィードバックのあり方についても考察したい。

最終的には、機器や徒手的介入という他の戦略と相互に作用しながら、歩行再建を達成するための「設計図」を本集会で描くことを目指す。

略歴

【学歴】

2010 年 YMCA 米子医療福祉専門学校 理学療法学科 卒業

2021 年 高知大学 総合人間自然科学研究科 医科学専攻 修士 (医科学) 取得

【職歴】

2010 年～2021 年 医療法人新松田会 愛宕病院 勤務

2021 年～現在 学校法人大麻学園 四国医療専門学校 理学療法学科 専任教員 勤務

【保有資格】

認定理学療法士 (脳卒中)

【活動】

神経理学療法学会香川地方会副リーダー、香川県理学療法士会研修部・事務局、認知神経リハビリテーション学会代議員



口頭フィードバックによる歩容修正の実践

医療法人社団 和風会 橋本病院
松本 猛

講演概要

「足を前に出して」「胸をはって前を向きましょう」など理学療法士はリハビリテーションを行うにあたり、口頭による動作指示を多用する。しかしながら、脳卒中患者に対する言語指示による動作への影響を報告した研究は少なく、検証は十分とは言い難い。

日々の臨床では、ハンドリングによる動作修正や症状に合わせた装具・機器の選定は重要であり、理学療法士としてのアイデンティティーであると考える。ただ、それらと同等に普段何気なく使用している言葉は重要であると考える。一般には、コミュニケーションは話し手が適切な発話を提示して、聞き手がそれを受容すれば、会話は成立する。その上で聞き手の知識・経験といったバックグラウンドの影響は大きく、高齢であったり、脳卒中を発症されたかたに対して、意図を伝えるためには内容に気をつけながら選定することが必要であると考える。加えて、漸減性を考慮し、その他アプローチと同様に内容を適宜変更していくことも重要である。今回、口頭による動作指示に変化を加えることで、歩行および筋活動に変化を生じた。改めて口頭による動作指示の重要性を自験例を通じて提示したいと考えている。

略歴

(学歴)

2008 年 穴吹リハビリテーションカレッジ理学療法学科卒業

(職歴)

2008 年 医療法人社団和風会 橋本病院 勤務（現在に至る）

(保有資格)

認定理学療法士(脳卒中)

3 学会合同呼吸療法認定士

(活動)

日本神經理学療法学会 香川地方会



ガイダンス（徒手）－介助量の定量化と卒業基準－

徳島文理大学
長田 悠路

講演概要

片麻痺患者の歩行介助に関する先行研究はほとんどなく、十分なエビデンスが存在しない。しかし、臨床現場では介助を行わないわけにはいかない。このようにエビデンスの蓄積が難しい治療領域においては、論理的考察と臨床経験を交えたディスカッションを通じて、有効な方法を提案していくことが重要である。歩行の再学習においては、運動主体感 (sense of agency) を失わせないことが極めて重要である。そのため、介助は「不足分を補うアシスト」に徹するべきである。介助が過剰であれば筋活動が抑制され、主体的な運動学習が妨げられる。一方で介助が不足すれば、課題達成のために代償動作（関節の過剰固定や非麻痺側の過活動など）が生じ、麻痺側機能の回復を阻害する。過不足のない介助を実現するためには、歩行時の姿勢・関節運動を整理し、それらを引き出すため、回復段階ごとに賦活すべき神経系や期待すべき運動出力を熟知しておく必要がある。本講演では、介助の方向性を三つの方向に分類し、重症度の変化に応じてそれらの配分がどのように変化するのかというモデルを提案する。介助量の定量化や卒業基準の提示は無理難題ではあるが、抽象的な議論に終わらぬよう、具体的かつ実践的な解を模索した。参加者との意見交換を通じて、より妥当な学習設計図を構築したい。

略歴

(学歴)

2006年 川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科 卒業

2019年 国際医療福祉大学 保健医療学専攻 福祉援助工学分野 博士(保健医療学)取得
(職歴)

2006年～2015年 特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院 勤務

2015年～2018年 農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター 勤務

2018年～ 現在 徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科 准教授

(保有資格)

専門PT（神経・小児）、認定PT（脳卒中）、スクールトレーナー

(活動)

神経PT学会Task Forceバランス障害班、神経PT学会徳島地方会、徳島県土会学術部



歩行獲得に向けたガイダンス（徒手）の実践

鴨島病院

松崎 和也

講演概要

今回、歩行獲得に向けたガイダンス（徒手）の実践をテーマに症例報告を行う。我々、理学療法士は対象者の歩行を介助下で行い、徐々に介助を減らし、自立した歩行へ導いていく。これらのプロセスは日常診療でよく経験するが、介助を減らす基準に関しては明確な基準はなく、セラピストの主観的な判断で行い、セラピストによっても介助を減らすタイミングや介助量は異なると考える。また、脳卒中片麻痺者が呈する症状は多様であり、歩行時にガイダンスを与える部位にも個別性があると考える。

今回、右前頭葉皮質下出血の症例を担当する機会を得た。本症例は基本動作、歩行に介助が必要で、ガイダンスがない状態では歩行が不可能であり、転倒の危険性が高い状態であった。本症例に対して介助下での歩行訓練を行い、経過を追っていく中で、徐々に介助が減らせられるタイミングがあった。歩行時のアライメントや加速度の変化をマーカーレス動作解析アプリを用いて可視化し、どのような身体反応が得られたため介助が減らせられたか、本症例にどのようなガイダンスを与えたのか、また若手セラピストとの介助方法や介助量の違いはどうなのかなど、様々な視点で評価、分析を行い、歩行獲得に向けたガイダンス（徒手）を実践した一例として提示する。

略歴

（学歴）

2010年 専門学校 健祥会学園（旧 徳島健祥会福祉専門学校） 理学療法学科 卒業

（職歴）

2012年 社会医療法人 石川記念会 HITO病院（旧 医療法人 肇愛会 石川病院） 勤務

2024年 社会医療法人 石川記念会 HITO病院 退職

2024年 医療法人 德寿会 鴨島病院 勤務（現在に至る）

（保有資格）

認定理学療法士（脳卒中）

（活動）

日本神經理学療法学会 徳島地方会

第35回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス香川
抄録集・プログラム集

【編集責任者】

第35回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス 香川
集会長 福田真也（橋本病院）

【準備委員】

集会長 福田 真也（橋本病院）
準備委員長 木原 幸太（伊予病院）
準備委員 門脇 一弘（近森リハビリテーション病院）
田上 友希（徳島赤十字病院）
佐々木 克尚（四国医療専門学校）
入船 直子（高松協同病院）
大森 貴允（松山リハビリテーション病院）
橋本 有司（近森リハビリテーション病院）

【大会事務局】

大森 貴允（松山リハビリテーション病院）

【抄録編集】

門脇 一弘（近森リハビリテーション病院）
田上 友希（徳島赤十字病院）
橋本 有司（近森リハビリテーション病院）